

笠岡市市議会 2004年9月議会のご報告

日本共産党 笠岡市議 ひのつ倫子

市民の暮らしを守るために

台風で被害を受けられたご家族の皆様方に心からお見舞いを申し上げます。

一日も早い災害復旧が求められているところです。台風対策に昼夜を問わず不眠不休で対応されました市の職員の方々、各地区消防団の方々、またボランティアの方々に、「お疲れさま、ご苦労さま」と心から敬意を申し上げます。私も微力ですが、お見舞いと励まし、調査のため、6島を含め、地元を中心に各地域を訪問させていただきました。また高校生、振興局、地域の皆さんとご一緒に復旧のためのボランティアに参加をさせていただいたところです。

このたびの一連の被害を教訓に、市民の命と健康、財産を守るために、事前対策、災害時対策、事後対策など、総合的な対策を早急に検討されることを強く願って質問に入りました。

南海地震，東南海地震について

私はこの問題で、2度（H14年9月、H15年6月）にわたり、市民の避難場所として指定されている、小中学校をはじめとした耐震調査、耐震補強について質問いたしました。「3年間で耐震調査を行うことを来年度から検討したい。」との前向きな答弁は具体化されず、再度対策をと願って質問した昨年は、「費用の余りかからない耐震調査の仕方を検討する。」というもの。

先の台風10号16号18号の被害をはるかに超える被害が予想されている。津波対策、液状化対策、避難場所にも指定されている公共施設、小中学校の耐震調査、耐震補強計画についてたずねました。

関係部長から「津波対策についての地域防止計画は不十分である。地震対策含め、啓発活動を進めていきたい。液状化については危険性について啓発活動を強化し、安全な場所の周知、建物の安全な基礎構造の普及を進める。又、今回の被災地域の実情にあった防災

対策をワークショップで住民と意見交換しながら作っていく。」

また教育長から、「耐震診断は必要である。未診断が多いので、財政的状况を見て優先順位を決め、早い機会に対応していく。」という答弁がありました。

学校のバリアフリー化について

現在民間公共施設を問わずバリアフリー化が進められている中で、将来の日本を担う子供たちを育てる幼・小・中学校のバリアフリー化が遅れています。簡易なスロープをつけたり、移動時には人的な補助を行うなどで対応している現状だが、今後、廊下、階段、トイレ、等のバリアフリー化に向けての計画を質問しました。

教育長より「必要性は認識している。学校の改築時に対応していく。一気にすすめられないので今後研究していく。」との答弁がありました。

今後南海地震、東南海地震に対する対策、バリアフリー化に向けての対応は、財政上の問題があっても、現実的に求められている課題です。私はそのために頑張っていきます。

場外車券場設置問題について

7月21日、経済産業省に確認したところ、6月16日に申請書が提出され、6月28日に当地笠岡に経済産業省より調査が入り、7月12日付けで申請に対する許可が下りています。渋滞問題など、市民の間で心配されているにも関わらず、笠岡警察署にも意見を聞きに行っていないということが電話のやり取りの中でわかりました。あまりにも簡単な調査です。

この時期と平行して、車券場の建設が進められ、それを見た多くの市民の方から、「すごい建物でびっくりだ。」「本当に宝くじ売り場とは違う、桁違いだ」などの声が上がっています。

私はこれまで4回に渡り、設置に反対の立場から企業のモラルの問題、市民生活上の問題、子供の健全育成上の問題、を明らかにしてまいりました。市長、教育長の答弁は一貫して、「商行為の問題だ。問題が起きないように申し入れる。対応する。」というものでした。10月16日オープンを目指し建設中のこの建物をつぶさに見られ、どのような思いをも

たれているのか、街づくりの観点から市長に、子供たちの健全育成上の観点から教育長に質問しました。教育長より「健全育成上の視点から、支障があってはならないと考えている。通学路などの対応したい。問題の起きる恐れのある場合には学校、PTA、補導センターなどと協力して重点的に補導を実施したい。」

又市長より「市民生活上や教育上のデメリットもあるが、安全対策、清掃など設置後の対策をしていくと言っている。デメリットだけでなく、総合的な街づくりで考えてほしい。50名を超える新規雇用、地域経済強化、波及につながる。収益は公共の福祉に用いられる。などのメリットを拡大していきたい。そして、デメリットを少なくしていきたい、なくしていきたい。」という答弁がありました。

総合的な街づくりという名のもとに、雇用の拡大などを前面に取り上げ、地方自治体の最も大切にしなければならない市民生活と子供の教育上の問題を2の次に考えているとしか思えず、問題があるといわざるを得ません。私は引き続き、市民生活を守り、子供たちの教育環境を守るために頑張ってまいります。